

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」




事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 舞鶴市立白糸中学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1実践テーマ	【 I・II・III 】
2実施対象者	全校生徒 446名
3展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育・特別活動)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4目 標 (ねらい)	<p>(1) 共生社会の実現に向けて、障がい者スポーツ（ボッチャ）の体験を通して、障がいのある人や障がい者スポーツへの理解と共生社会の実現に向けた態度の育成を図る。</p> <p>(2) 東京オリンピック・パラリンピックに関する掲示物を作成・掲示し、興味関心の向上を図る。</p>
5取組内容	<p>(1) パラスポーツ体験 12/7～1/29 パラスポーツであるボッチャを体育授業で体験した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(2) キャップアートパネル作成 1/12～1/18 東京オリンピック・パラリンピックをイメージするキャップアートパネル作品を生徒が作成し、昇降口に掲示した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

6主な成果	<p>(1) これまで生徒が経験する機会の少なかったパラスポーツの体験を通して、競技の特性や楽しみを身近に感じることができ、パラリンピックに向けた興味関心が向上した。また、障がいの有無に関わらずスポーツを楽しむ権利があることを理解し、権利と機会の保障をすることが共生社会の実現に繋がることを学んだ。</p> <p>(2) キャップアートパネル製作では、オリンピック・パラリンピックムーブメントに主体的に取り組んでいるという当事者意識を持つことができ、「スポーツを支える」という視点が生まれた。また、ペットキャップという本来は処分されるものを全校的に収集し、アートの材料としたことで、環境問題についても目を向けることができた。製作を掲示し、日々目にすることで、オリンピック・パラリンピックに対して興味関心が向上した。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>(1) パラスポーツ体験の楽しさだけを感じさせるのではなく、障がい者への理解や共生社会に向けて自分自身ができる働きかけについて考えさせる機会とした。また人権学習と連携し、効果的な学びになるように展開した。</p> <p>(2) キャップアートパネルの構図を生徒会中心に考案・作成させることで生徒が主体的に活動しやすいようにした。また、生徒会マスコットを取り入れるなどのアイデアを採用し、オリジナリティを感じさせる構図とした。</p>
8主な課題等	<p>(1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催までの数年間は特に生徒の興味関心も高くなっているため、重点的な取組の指導がしやすく、教育的効果も高いと感じた。</p> <p>(2) 全国的な新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあったが、可能な範囲でオリンピック・パラリンピック教育を行い、生徒の意欲向上に取り組むことはできた。一方で、「オリンピック・パラリンピックを次年度に開催することは難しいのではないかと心配する世間の雰囲気を感じている生徒もいることから、このような状況下では本事業が本来狙うような効果は期待しにくい。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>現段階で東京オリンピック・パラリンピックが開催予定であり、自国で開催される数少ない機会を有効に活用して教育活動に繋げたい。また、舞鶴市はウズベキスタンの柔道、レスリング代表の事前合宿予定地であることから、オリンピック・パラリンピックを身近に感じられる環境がある。効果的な取り組みができる条件が揃っていることを踏まえて、実施について前向きに検討したい。</p>